

妻と従業員の
昼食の買い出しも
無我夢中の数年だった

なずき ちから
鈴木 力

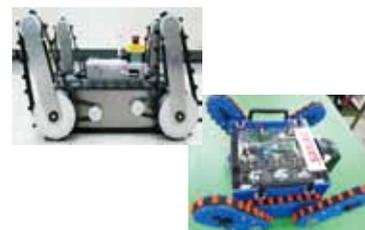
株式会社栄製作所 代表取締役社長

昭和27年（1952）、南相馬市原町区生まれ。
地元の工業高校卒業後、1971年 NEC 府中事業所に就職。1974年退職、
Uターンし、株式会社栄製作所設立時に先代社長の誘いを受け、3人の
創メンバーの1人として入社。南相馬ロボット産業協議会、ロボット開発研究会員。

東日本大震災の後、地域全体の産業の発展、新たな地域雇用の創出などを
目的として発足した南相馬ロボット産業協議会。相双地域の専門分野の企業が
会員となり、官民連携で活動しています。その分科会として立ち上がった
ロボット開発研究会は、現在、11社の会員企業を中心に、災害対応ロボットの
開発研究を行っています。コロナ禍で開催が延期となりましたが、
経済産業省などが主催する「ワールドロボットサミット」にエントリー。
当日は、夢と希望に満ちあふれた学生にロボットをオペレートしてもらおうと、
その訓練に励んでいるところです。

私が代表を務める栄製作所は、通信機械器具及び関連機器の製造を行っています。
震災後、いつまでも取引先に迷惑はかけられないと3月末には事業再開に
こぎつけましたが、原発事故の影響で生活環境が整っておらず、従業員の昼食を
妻と買い出しに行くこともありました。

同業者や取引先から支援物資をいただいたこともありがたかったです。
無我夢中の数年が過ぎたころ、新たな方向性を見つけようと福島県主催の
展示会に出向きました。そこで出会った企業や大学とお付き合いが始まり、
ものづくりの更なる可能性を探り広げています。



災害対応用の初号機（左）と教材用として製作した
機器（組み立てた状態）。自力移動ができる